



1990年
身近な生きもの
調査

●調査のてびき●

環 境 庁

はじめに	1
1. 調査はこうして進められます。	2
2. こうやって調べてください。	3
3. 調査票の記入のしかた	5
4. 調査票の返送方法	7



春の花コース

スギナ	9
ニリンソウ	10
キブシ	11
オオイヌノフグリ	12
カタクリ	13



鳥の声コース

カッコウ	15
アオバズク	16
ヒバリ	17
オオヨシキリ	18



夏の虫コース

ギンヤンマ	20
オニヤンマ	21
アオスジアゲハ	22
オオムラサキ	23
カブトムシ	24



虫の声コース

クマゼミ	26
ヒグラシ	27
ミンミンゼミ	28
アオマツムシ	29
マツムシ	30



秋の花コース

ミズヒキ	32
カラスウリ	33
セイタカアワダチソウ	34
オミナエシ	35
ヒガンバナ	36

1990年 身近な生きもの 調査



タンポポコース

シロバナタンポポ	39
在来タンポポ	39
セイヨウタンポポ	39
アカミタンポポ	39



ツバメコース

ツバメ	42
コシアカツバメ	42
イワツバメ	43



水辺の動物コース

コサギ	45
カワセミ	46
ゲンジボタル	47
ヘイケボタル	49
サワガニ	50



南の鳥コース

カラスバト	52
リュウキュウツバメ	53
シロガシラ	54
キノボリトカゲ	55
オキナワチョウトンボ	56
アフリカマイマイ	57
サクラツツジ	58
リュウキュウシャジン	59



淡水魚コース

ウナギ	61
ウグイ	62
オオクチバス(ブラックバス)	63
ヨシノボリ	64

はじめに

「身近な生きもの調査」にご参加いただき、ありがとうございます。

このてびきを手にされたあなたは、自然に大変興味をお持ちの方でしょうか、それともこの調査のことをお聞きになって、初めて自然に目を向けようと思われた方でしょうか。みなさん、それぞれの思いがあることと思います。

実際に調査を始めてみると、わからなくなったり、とまどったりすることもあるかと思いますが。しかし調査期間はたっぷりありますので、じっくりと、できるものだけを、みなさんのペースでやってみてください。

このてびきは、調査のやり方や調査対象の動植物の見分け方などについて説明したものです。調査を始める前に、ひととおり目を通してください。わかりにくい点は、どうぞご遠慮なく、自然環境調査室へお問い合わせください。

今回の調査が、みなさんの身の回りの自然をもう一度見つめ直すきっかけになればと、願っています。

気をつけていただきたいこと

- この調査は、みなさんの日常の生活の範囲内で行っていただくものです。
ですから、この調査のためだからといって、わざわざ普段は行かないような所へ出かける必要はありません。
- とくに、危険な所や立ち入りが制限されているような所へは、お出かけにならないでください。
- 調査中に事故等に遭われてもお世話することができません。調査にあたっては事故やケガに十分にご注意ください。
- この調査は、動植物を採集しなくても調べられる内容です。調査対象のなかにも地域によっては数が少なくなっているものも含まれていますので、調査にあたっては動植物の保護に配慮してください。
- 小学生以下の方が調査される場合は、必ず保護者の方や先生が指導されるよう、お願いいたします。

1 調査はこうして進められます

「身近な生きもの調査」は、全国の多くの方々に参加いただいて、みなさんの身のまわりの生きもの情報を環境庁にお寄せいただき、最新の「全国生きもの地図」を作ったり、身近な自然の状態を診断したりしようというものです。さあ、みなさん。このたびきに説明されている動植物の姿や鳴き声を手がかりに、身のまわりの小さな自然を発見してください。

さて、みなさんからは、「どこで、何を、見つけたか」という情報を送っていただくのですが、何百万という数の貴重なデータを速く、正確に集計するために、場所や動植物名などは番号でお答えいただけます。このことがちょっとやっかひに感じられる方もいらっしゃると思いますが、慣れれば決してむずかしいことではありません。みなさんから、たくさん生きもの情報が届くよう、期待しています。

以下に、この調査の実施方法を説明します。

■調査に使う資料

①調査のてびき 今お読みいただいているこの本です。この本には、大きく分けて1. 調査全体の流れ、実施方法、2. 野外での調査のやり方、3. 調査対象種の解説の、3つのことが書いてあります。

調査を始める前に、この本にはひととおり目を通しておいってください。また、調査に出かけるときは、必ず持っていってください。

②メッシュ地形図 この本と一緒に送りました地図です。参加申し込みの際にご指定になった地域のもが同封されています。ご指定にならなかった方には、お住まいの近辺の地図が同封されています。この地図は、国土地理院が発行する1/5万地形図に縦横20等分の線を入れて400のメッシュ(区画)に分割してあるので「メッシュ地形図」と呼びます。1枚の地図は約20km四方ですから、1つのメッシュ(区画)は「約1km四方」ということになります。

一つひとつのメッシュ(区画)には、それぞれ特定の番号(8ケタ)がついています。今回の調査では動植物の「確認地点(場所)」をこの番号でご報告いただけます。

③調査票 調査結果を環境庁にご報告いただくときに利用する用紙です。確認地点(1メッシュ)ごとに、その地点(メッシュ)で「見つかった」(あるいは「見つからなかった」「わからなかった」)動植物に○をつけてご返送ください。

④参加証 あなたの番号が書かれているカードです。環境庁ではお名前と合わせて番号で参加者の方を記録しています。ご報告の際には、この番号を必ずお書きください。

■回答方法

上記のとおり、調査結果は「調査票」で回答いただきます。

返送いただくものは、この「調査票」と「アンケート用紙」だけです。

■調査票の返送期限

平成2年12月末日までに、まとめてご返送ください。

■集計と調査結果の公表

みなさんから寄せられた調査票のデータはコンピュータに入力され、調査メッシュ数(調査されたメッシュの数)や種ごとの確認メッシュ数などの集計を行うとともに、全国あるいは地域ごとの分布図(生きもの地図)を作成します。みなさんから寄せられたデータをもとに分布図を作成することによって、生きものから見た身近な自然の状況や都市化の影響などがわかるわけです。

こうした調査結果は新聞やテレビを通じてお知らせするとともに、調査票をお寄せいただいたみなさんには、できるだけ早く分布図などを盛り込んだ「報告書」をお届けします。

2 こうやって調べてください

「身近な生きもの調査」は大勢の方に参加いただけるよう、調査方法などはなるべくわかりやすくなるよう工夫しました。以下に、調べ方について説明します。

■何を調べるの？(調査対象種)

〈コースを選んでください〉

今回の「身近な生きもの調査」では、季節や動植物の種類、そして見分け方のむずかしさなどを考えて、全部で10のコースを設けました。

これらのコースのなかから、あなたの好きな、あるいは自信のあるコースを選んでください(いくつ選んでも結構です)。

全部のコースを調べる必要はありませんし、お選びになったコースのなかでも、自信のない種類はやらなくても結構です(この場合は、必ず「わからなかった」に○をつけてください。詳しくは、「調査票の記入のしかた」を見てください)。

お手元にお届けした調査票はすべてのコースのものを含んでいます。最後の調査結果を記入した後に、やっていただいた(記入した)コースの調査票だけを返送していただくことになります。

〈季節ごとに調査してください〉

それぞれのコースには、調査に適した季節があります。植物は花の咲くときや実のなるときに、また鳥や昆虫はその鳴き声がよく聞くことのできるときに調査すると見つけやすいものです。

それぞれのコースは、こうした「調査の季節」も考えて作ってあります。みなさんが実際に調査されるときは、表にあげたそれぞれの季節を参考にして行ってください。

〈調査対象は全部で48種類〉

つぎのページのコース別の表にある動物32種類、植物16種類が調査の対象です。

これ以外にも珍しい生きものにたくさん出会うかもしれませんが、表にあるもの

外は今回の調査の対象ではありません。

表にある動植物は、身近に生息し、見分けが比較的簡単に、身近な地域の環境の診断に役立つようなものを選びました。

■コース別調査対象種

	コース	季節(月)	調査対象種	
気軽な初心者コース	A	春の花コース	4-5	スギナ/ニリンソウ/キブシ/オオイヌノフグリ/カタクリ
	B	鳥の声コース	4-6	カッコウ/アオバズク/ヒバリ/オオヨシキリ
	C	夏の虫コース	7-8	ギンヤンマ/オニヤンマ/アオスジアゲハ/オオムラサキ/カブトムシ
	D	虫の声コース	8-9	クマゼミ/ヒグラシ/ミンミンゼミ/アオマツムシ/マツムシ
	E	秋の花コース	9-10	ミズヒキ/カラスウリ/セイタカアワダチソウ/オミナエシ/ヒガンバナ
ちよつと専門的なコース	F	タンポポコース	4-5	シロバナタンポポ/在来タンポポ/セイヨウタンポポ/アカミタンポポ
	G	ツバメコース	5-6	ツバメ/コシアカツバメ/イワツバメ
	H	水辺の動物コース	6-7	コサギ/カワセミ/ゲンジボタル/ヘイケボタル/サワガニ
	I	南の島コース	4-8	カラスバト/リュウキュウツバメ/シロガシラ/キノポリトカゲ/オキナワチョウトンボ/アフリカマイマイ/サクラツツジ/リュウキュウシャジン
	J	淡水魚コース	4-8	ウナギ/ウグイ/オオクチバス/ヨシノボリ

(*) 観察に適した月は目安であって、地方によって多少のずれがあります。

<“見つからなかった”も大切な情報>

みなさんが自信をもって確認できたものは、調査票の「見つかった」に○印をつけて報告していただきます。しかし、すべての動植物がどの地域でも見られるわけではありません。そこで、「探したけれども、あなたの探した範囲では見つからなかった」、あるいは、「探さなかったので、あるいは、見分けができなかったので」わからなかった」という場合も、そのデータをお寄せいただきます（詳しくは、「調査票の記入のしかた」をご覧ください）。ただし、今回は「いつ」とか「どのくらい」ということは調べる必要がありません。（ヒガンバナは特別に、「花」を見た場合にその日付を回答いただきます。）

<飼育されているものや、栽培されているものは対象外>

野外に自然のままに生息しているものを調べてください。ペットとして飼われているものや、栽培されているものは調査の対象ではありません。

「緑の国勢調査」（正式には自然環境保全基礎調査という）は全国の自然の現状や推移を知るために、およそ5年ごとに実施しているもので、植物や動物の分布、河川、湖沼、海岸線の変状状況など、自然のさまざまな面が調べられています。昭和48年度に第1回調査が実施され、現在は第4回の調査に入っています。

「身近な生きもの調査」はこの「緑の国勢調査」の一環として実施されるもので、1984年の第3回調査から始められたものです。

■どこで調査するの？

どこでも結構です、あらかじめ決められた調査地域というものはありません。毎日通る通勤、通学の道沿いや散歩のコースなどでも結構ですし、休日に野山へ出かけられることがあれば、その場所でも結構です。

この「身近な生きもの調査」は、ある地域の動植物を集中的にすべて調べあげようというものではありません。今回対象とした動植物に対して、多くの方々の注意が注がれることにより、広い範囲からのデータを集めようとするものです。

■どれだけのメッシュを調べるの？

どれだけやらなければいけないということはありません。調査する広さ（メッシュ数）はできる範囲でかまいません。余裕のある方は多くのメッシュを調べていただいで結構ですし、逆に、ご自分で決めたメッシュを何回も繰り返し調べるのも良い方法です。

■どうやって調べるの？

この調査では、調べる地域も方法もみなさんの自由です。散歩や通勤、通学の途中で見かけた動植物をメモしたり、釣人に尋ねてみたりするのも、一つの方法です、いろいろ工夫しながら調べてください。

以下に調査にあたってのポイントをいくつかあげておきます。

- すでに書いたとおり、それぞれの対象種には調査に適した季節があります。花の咲くときや鳴き声をよく聞くことのできるときに調査しましょう。
- 調べる地域の環境をつかみましょう。草原か森林か、水辺があるかないかなど、その地域の環境によって、そこで見られる動植物もちがいます。
- この「調査のてびき」は、なるべくわかりやすく作ったつもりですが、このてびきだけではわかりにくいこともあるかもしれません。できれば、他の図鑑類も参考にしてください。また、動植物の見分けは、一度詳しい人に見分けのポイントを教えてもらうととてもわかりやすいものです。お近くにはそのような方がいれば、教えてもらうとよいと思います。
- 調査の実施期間中に、環境庁や都道府県、その他の団体がこの調査にちなんだ観察会を開く予定です。調査の方法や動植物の見分け方に自信のない方には参考になるとと思いますので、ぜひご参加ください。

調査票の記入のしかた

調査結果は、このてびきと一緒に送付した「調査票」に記入して環境庁までご報告いただきます。以下に、調査票の使い方と記入方法を説明します。

■使い方

- 調査票はコースごとに分かれています。
- 1枚の調査票には、2メッシュ分の調査結果が記入できます。

- 同じコースの同じメッシュを時期を変えて何回か調べた場合も、1つのメッシュの調査結果は、同じ調査票にまとめて記入してください。
- たくさんのメッシュを調べて調査票が足りなくなったときは、未記入のものをコピーして使っていただいてもかまいません。
- 団体が参加された場合で大量に不足したときは、環境庁へご請求ください（詳しくは、調査票の最後のページをご覧ください）。

■記入のしかた

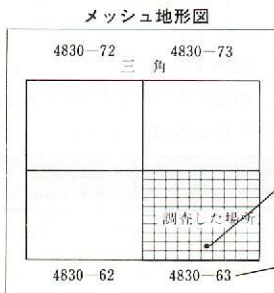
- ①**参加者番号** あなたの参加証の番号(10ケタ)をお書きください。
- ②**氏名(団体名)** 団体が参加を申し込まれた場合は、団体名をお書きください。
- ③**地名** 調査したメッシュの地名をお書きください。記入する項目は「都道府県名」「市区町村名」「具体的な場所の名前(字名や○○山、○○川、○○公園など)」の3つです。
- ④**地図名** そのメッシュが含まれる「メッシュ地形図名」をお書きください。
- ⑤**メッシュコード** 調査地(あなたが動植物を「見つけた」あるいは「見つからなかった」所)が、メッシュ地形図のどのメッシュ(区画)に含まれるかを見て、そのメッシュの番号(8ケタのメッシュコード)をお書きください。

メッシュコードは、初めの6ケタが地図の上下の余白に、そして後の2ケタがそれぞれのメッシュ内の左下すみに書かれています。

- ⑥**調べた動植物名** それぞれの動植物について、「1. 見つかった」「2. 見つからなかった」「3. わからなかった」のいずれかの番号に○をつけてください。以下に、1～3の内容について、説明します。

<1. 見つかった>

A01		この区コース
参加者番号	0130038240	氏名(団体名) 山川みどり
地名	東京 江川 葛飾海公園	
地図名	東京東北部	
メッシュコード	53393669	
1. スギ	<input checked="" type="radio"/>	(1. 見つかった) (2. 見つからなかった) (3. わからなかった)
2. ニリンソウ	<input checked="" type="radio"/>	(1. 見つかった) (2. 見つからなかった) (3. わからなかった)
3. キフシ	<input checked="" type="radio"/>	(1. 見つかった) (2. 見つからなかった) (3. わからなかった)
4. オオイヌノフグリ	<input checked="" type="radio"/>	(1. 見つかった) (2. 見つからなかった) (3. わからなかった)
5. カタクリ	<input checked="" type="radio"/>	(1. 見つかった) (2. 見つからなかった) (3. わからなかった)
地名	東京 葛飾 江戸土手	
地図名	東京東北部	
メッシュコード	53395710	
1. スギ	<input checked="" type="radio"/>	(1. 見つかった) (2. 見つからなかった) (3. わからなかった)
2. ニリンソウ	<input checked="" type="radio"/>	(1. 見つかった) (2. 見つからなかった) (3. わからなかった)
3. キフシ	<input checked="" type="radio"/>	(1. 見つかった) (2. 見つからなかった) (3. わからなかった)
4. オオイヌノフグリ	<input checked="" type="radio"/>	(1. 見つかった) (2. 見つからなかった) (3. わからなかった)
5. カタクリ	<input checked="" type="radio"/>	(1. 見つかった) (2. 見つからなかった) (3. わからなかった)



その動植物を自信をもって確認できたときに、ここに○をつけてください。他の種類との見まちがいや鳴き声の聞きまちがいに注意してください。

<2. 見つからなかった>

注意しながら探したけれども、そのメッシュ内で、あなたが探した範囲では見つけることができなかったときに○をつけてください。

例えば、「スギナとオオイヌノフグリは見つかったが、ニリンソウは見つからなかった」というような場合のニリンソウがこの項目にあたります。

<3. わからなかった>

この項目には2つの場合が含まれます。

まず「調べなかった」という場合です。すでに書いたとおり、選んだコースのなかでも全部の種類を調べる必要はありませんので、調べるのを省いた場合などは、ここに○をつけてください。

もう一つは「似たかたちの動植物を見つけたが、今一つ自信がない」というような場合です。

今回の調査では、なるべく見分けのやさしい、まちがえにくい種類を選びましたが、それでも実際に野外に出ればほんとうにそれかどうか迷うこともあるでしょうし、とくに「今回初めて名前を聞いた」という種類については、それをすぐに見分けるのは少しむずかしいかも知れません。そういう場合で、どうも自信が持てないというときは、ここに○をつけてください。

以上をもう一度、表にまとめておきます。

1. 見つかった	● 自信をもって、確認できた
2. 見つからなかった	● 探したが、見つからなかった
3. わからなかった	● その種については調べなかった ● 見分け（区別）ができなかった

4 調査票の返送方法

調査結果を書き込んだ調査票の返送方法を説明します。少ししか調査できなかったとしても、大切な調査結果ですから必ず環境庁までお送りください。みなさんから寄せいただく一枚一枚が「生きもの地図」を作る貴重な情報となります。

- 返送期限は、平成2年12月末日です。
- 記入済みの調査票をはがして、まとめて返送ください。
- 調査票は折らないでください。
- 切手代はみなさんにご負担いただきます。環境庁からお送りした所定の封筒に、重さに応じた切手を貼って投函してください。
調査票をお送りいただいたみなさんには、データを集計の後、できるだけ早く報告書をお送りいたします。
- アンケート用紙にご記入のうえ、調査票と一緒に送りください。